

文化芸術をつなぐため、今、必要なこと

文化芸術推進フォーラム

令和2年4月6日

私たちは今、世界的な新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の事態に直面している。

2月26日の感染拡大防止のための文化イベント自粛要請が出されてから3週間で5000回を超える公演中止が報告されてきた。それから一月余、中止は次々と今も続いて5月にまで至ろうとしており、創造や指導の現場からは仕事を失ったフリーランスの窮状、芸術団体の事業継続の危機について多くの声が発せられている。

一つの公演を成り立たせるために、多様な分野の専門家、アーティスト・スタッフが集まり、長い時間と資金をかけて準備しているが、公演中止により入場料収入を失っている。

既に行われた創作、稽古など人々の営為、舞台づくりの成果が陽の目を見ることなく、すべて失われてしまうことを意味する。これらの営為に酬いることが出来ず、次の創造の準備に力を注げない事態に陥っている。こうした状況は公演にとどまらず、映画・映像製作の現場と上映する劇場、美術館・博物館の閉館にも及んでいる。鑑賞を楽しみにしている人々の気持ちにも応えられない。創造のサイクルの断絶である。

文化芸術は人々の想像力、創造性とノウハウの歴史的な蓄積、多様な分野の専門人材の総合力、そして人々の支援で成り立っているが、その分解は文化芸術の継承の危機であり、基盤が根こそぎ損なわれかねない。

今、この危機的状況を前にして、文化芸術推進フォーラムは以下の点について実現を強く要望する。

1. 文化芸術振興議員連盟の緊急決議にある「文化芸術復興基金」を早急に創設すること。基金規模としては最低一千億円とし、政府による拠出を早急に行い、官民の力を合わせた基金とするよう努力する。

基金による支援対象は、公演、映画・映像製作、展示会を中止した多様な事業者、芸術団体等及びキャンセルによって仕事と収入を失った実演家、アーティスト、スタッフ、指導者等の個人とし、専門機関で審議し、配分を決定すること。

2. ポピュラーからクラシック音楽、オーケストラ、ミュージカル、児童演劇、歌舞伎、能楽、落語、さらに映画・映像、メディア芸術、美術など広範な芸術分野から損失が生じていることが報告され、中には億単位での損失を抱える企業も生まれている。

既に中小企業、個人事業主向けの小口融資・給付などが発表されているが、こうした文化芸術関係者が文化芸術復興基金から実際に支援を受けるまで活動を継続できる規模の緊急融資を無利子無担保で行うこと。

以上

文化芸術推進フォーラム 構成団体（21団体）

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

一般社団法人日本音楽著作権協会

一般社団法人日本レコード協会

一般社団法人日本音楽出版社協会

一般社団法人日本楽譜出版協会

一般社団法人日本音楽作家団体協議会

芸術家会議

公益社団法人日本オーケストラ連盟

一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

公益財団法人音楽文化創造

一般社団法人全国楽器協会

劇場等演出空間運用基準協議会

芸術文化振興連絡会<PAN>

一般社団法人コンサートプロモーターズ協会

協同組合日本映画監督協会

協同組合日本シナリオ作家協会

一般社団法人日本映画製作者連盟

一般社団法人日本美術家連盟

一般社団法人全国美術商連合会

一般社団法人日本美術著作権協会

一般社団法人日本写真著作権協会